

本校は、県教育委員会から、教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究）の指定を受けています。指定2年目となる今年度の研究テーマは、「学習活動の質を高めるための評価（Assessment）を踏まえた単元計画の作成」としました。その研究の一環として、6月30日、研究開発グループの企画により、「学習の質を高めるための評価（Assessment）とは？」と題した教職員研修会を実施しました。今回も密集を避けるために、教職員全員がタブレットを各自1台ずつ持った上で10教室に分散しました。グループ分けは、教科、年齢等が分散する形でランダムに構成され、研究開発グループのメンバー等がファシリテーターとして1人入ります。全体会はオンラインで、分科会は教室で相互の距離を確保した上で対面というやり方です。

事前に、研究開発グループが用意、配付した資料[①学習の質を高めるための評価（Assessment）について考える ②教育用語集（主に評価に関するもの）]を読んだ上で、次の3点について協議し、その後全体会で、主要の意見の発表を各班から行った上で、最終的にはG-Formを用いて詳細を共有しました。主なものを紹介します。

- ① 「Assessment」としての評価について、自教科では以前どのように行ったか。あるいは、今後どのように行っていくことができるだろうか。
  - ・前回の振り返りを本時の最初に提示し、それを踏まえて目標を立てさせ本時の活動につなげていく。
  - ・生徒の授業の様子をよく見て、できたことなど、声をかけて評価する。
  - ・パフォーマンステストでは、必ず前回のテストを参考にフィードバックしている。
  - ・生徒同士で相互評価したり、自己評価したりすることで自分の成長を確認させる。
  - ・生徒自身の振り返りや自己評価を取り入れ、学んだことや疑問に思ったことを書かせている。
  - ・ワークシートを通して、生徒の取組みや考え方などを見取り、コメントをする。
  - ・多くの教科で振り返りを実施しており、その場ではわからないつまりきを確認でき、助言や指導に活かすことができる。ただし、それには一定程度の時間を確保する必要がある、本校の65分授業は適していると思う。
  - ・体育では、「できたら楽しい」がキーワードとなった。他者の活動を見ることで、一人ひとりの「こうなったらいいな」が具体的な目標につながり、今後の取組みに活かしていけるようになる。
  - ・様々な活動で、ルーブリックを用いることで、Assessmentが促進されている。ルーブリックによって、生徒による自己評価を促すこともできる。
  - ・生徒同士でチェックすることで、お互いに高め合える。気づきが多い。
  - ・各教科における「身に付けさせたい力」を獲得する過程で、生徒の成長を見取る手段として行われている。生徒は「振り返り」等をする過程で自己評価し、それに対

して教師からのコメントなどを得て次の学びに向かっている。

② 「パフォーマンス評価」について、自教科で以前どのように行ったか。あるいは、今後どのように行っていくことができるだろうか。

- ・事前に評価のポイントやルーブリック、本時の目標を提示する。
- ・理科でレポートを課す場合、自らの考えを根拠に基づき論理的に記述できているかを評価する。
- ・生徒が授業を通して何ができるようになったかを測るために、暗記や調べるだけでは解決しない課題を出すようにしている。例えば、英語の授業では、3年生から1年生に向けて沖縄修学旅行の広告を英語で作成した。
- ・英語の授業は、日頃の授業活動の多くがパフォーマンス評価であると言える。
- ・体育では、単に体を動かすだけでなく、話し合いを重視した授業形態や、ダンス・剣道のように発表や見せ合いをすることで他者からの評価を活かせることに取り組んでいる。
- ・グループ学習、ワークシートやグループでの話し合いから生徒の思考のプロセスを見る。そのためには、ワークシートを充実させることが大事である。
- ・必要な知識があった上で、次のステップとしてのパフォーマンス課題を設定している教科が多いと感じた。
- ・单元ごとに、まとめになるようなパフォーマンス課題を積み上げることで、1年間の学びを自ら見取ることができるようなポートフォリオを作成している。

③ 教職員が教育用語を習得して使用する意義は、どのようなものであろうか。

- ・共通理解のある用語を適宜用いることでスムーズな情報共有が可能になる。
- ・自分の授業を振り返ることにつながる。組織的な運営につながる。
- ・教育用語を知るということを、様々な評価の方法を知ることと捉えてみました。
- ・多面的な見方、教育観を持つために、教育用語を知ることが大事だと思った。
- ・組織として、用語の統一見解を持つ必要がある。
- ・考え（暗黙知）を整理して（形式知）実践に移しやすくする（実践知）。

今回も、自分たちの教科でどのような取組みをしているかを共有し合うことで、それらを客観的に振り返るとともに、他教科の特性やアイデアを知ること、それを自分たちの授業で活かしていこうとする意欲が高まったと感じます。

本校の目指す生徒像は「心やさしき社会のリーダー」です。それを実現するためには、生徒自身が適正な自己評価ができるようになってほしいと考えています。その意味においても、授業において、生徒と教員との共同作業としての評価の質を高める努力を継続していくことが重要だと考えています。